

保育おおさか

平成17年11月1日 第363号

大阪府社会福祉協議会・保育部会
☎ 06-6762-9001 Fax 06-6768-2426

保育部会

大阪府などにも要望書

「運営費は正働きかけを」

保育部会は、9月28日、大阪府・市長会・町村長会に対し、保育部会長名で一時保育・特定保育に関する要望書を提出した。

今年5月、「保育対策等促進事業の実施について」が改正され、その中の「一時・特定保育事業実施要綱」も改正された。

その結果、一時保育については、これまでの補助方式が変更され、一律単価(129.6万円)が設定されることになった。このため、利用人数が少ない園にとつ

ては運営費の増加となるが、利用人数の多い園にとっては運営費が激減するという結果を生む事態になってしまった。

そこで、保育部会は、役員会を開催し、関連団体に対し、一時保育・特定保育の運営費に関する要望書を提出することを決めた。すでに、9月22日、厚生労働省を訪れ、北井局長に要望書を提出している。(本紙10月号の2面に掲載)

府庁への要望書提出には、府社協からは霞矢常務と佐藤局長、部会からは、永野部会長をはじめ、水崎副部会長、門谷副部会長、嶋田副部会長、武内副部会長、亀井幹事、和田幹事が参加。

部会からは、厚生労働省に要望に行った際

の報告と、一時保育と特定保育に関する要望書をおこした。

大阪府からは、納谷健康福祉部長、志知政策監、南部次長、飯尾児童家庭室長、中野課長、津田補佐、後藤

とおり。また、同様の要望書を大阪府内の市長会、町村長会に対し、提出した。要望書(要旨)は別項の

一時保育・特定保育の運営費に関する要望書

このたび平成17年度国予算において、一時保育ならびに特定保育の運営費については、従来の補助方式が変更され、実施保育園への一律単価が設定されております。

このため、利用人数の少ない園は、大幅に運営費が増える一方、利用人数の多い園には運営費が激減するという矛盾が生じており、しかも、上半期の事業が半ば進行している、今の時期に補助制度の変更が行われようとしています。

これまで、一時保育ニーズに対応して努力を重ねてきた保育園については、利用者が増えれば増えるほど赤字が拡大する仕組みとなっております。

一時保育・特定保育の実施促進を図り、持続可能な制度となるよう従来の補助方式に戻すよう国に働きかけられたい。さらに従来の補助方式に戻せない場合は、国の新しい運営費を基本額として、年間利用人数が基準を超える場合、府単独補助により利用人数に見合った運営費の加算を行われたい。

併せて、市町村への指導・援助による、大阪府としての保育サービスの発展・強化の方向と目標を明確にされたい。

今後、保育ニーズの多様化や市町村の地域特性に対応したサービスを確立するために国への要望をはじめ、市町村への働きかけも併せてお願いいたします。



今夏、滋賀県米原の湧き水と梅花藻(バイカモ)で有名な醒ヶ井(さめがい)

を訪れた。

清らかな水の流れのある町はなんとも羨ましく思う。中山道の宿場町。様々な人が訪れている。

町を歩いてみると西行法師が訪れたという碑が建っていた。西行法師：？ふと思いついた。摂津市に住まう私が、保育園から徒歩10分ほどに「江口の里」がある。お散歩コースではないが、隣町にあたる。

平安から鎌倉時代まで水上の要所として栄えた江口があった。その昔、西行が旅の途中で雨に降られ、雨宿りとして求めた江口の宿で遊女妙との歌問答「新古今集」から。

西行「世の中を厭うまでこそ難からめ 飯の宿りを惜しむ君かな」

遊女妙「世を厭う人とし聞けば飯の屋に 心留むなと思うばかりぞ」

と一晩語り明かしたという。私が、酒と会話で一夜を明かす。今風で言う「伽場蔵」？とは、少しおもむきが違うが、それとも？？私は、今日も北行。(M・H)

第三者評価事業 訪問調査11月から

受審予約は年末に受付

先月号では、評価調査者研修を取り上げ、児童福祉分野の受講者からの報告を掲載しましたが、その後、10月の初旬で評価調査者の研修は修了し、保育園への訪問調査が11月末から開始される予定となりました。

査者によって評価の偏りをなくするため、調査の手法や流れについての研修を1日、第三者評価基準の読み込み研修を4日間受講してから、実際に活動していくこととなります。

調査は保育園長の経験者である「運営管理委員」と、保育士資格を持ち、保育園での勤務経験がある「専門職委員」の2人一組でおこなわれます。

評価調査者は、評価する施設を実際に訪問し、その施設を評価するために必要な判断材料をあつめることがその役割とされています。

実際の評価結果は、学識経験者、施設の事業者、従事者、利用者、それぞれ複数名で構成される「評価決定委員会」で決定されます。

受審施設は、訪問調査を受ける前に、自己評価をする必要があります。評価調査者は、その自己評価結果を踏まえて訪問調査をおこないます。

その後、「受審結果案」を受審施設に送付、この内

調研

資料集もうすぐ発刊 最新の情報提供に重点

容に異議があれば申立てができます。そして、最終の

平成17年度の保育園関係資料集の発刊が近づいてまいりました。資料集小委員会は世代交代が進んでおり、今年度は例年以上に若手の先生方に大変多くの作業を引き受けていただきました。その甲斐あって前年度に比べて早い時期の発刊が見込まれています。

この保育園関係資料集では、毎年、掲載内容の検討をおこなっています。今年度は新たに「公立及び民間保育園への運営にかかる支出総額」を掲載いたしました。施設数と定員数もあわせて記載していますので、大雑把ではありますが公私の比較ができるのではないかと思います。

結果は「評価決定委員会」で出されることとなります。10月末日現在、保育部会からは、74か所の受審予約を受けています。府社協の福祉サービス第三者評価センターでは、今年度中にそのうちの51か所について訪問調査をおこない、うち30か所については、評価結果を公表する予定です。なお、18年度の受審受付は、年末におこなうとのこと。保育部会では、11月21日

に、第三者評価基準を理解していただくため、「第三者評価事業研修会」を開催する予定です。また、保育士会も来年1月23日に、保育士に向けた第三者評価の研修を開催予定です。

り、大変苦心しながら作成をしています。

しかしながら、保育園関係資料集に掲載する資料は「鮮度が命」だと考えています。より新しい資料を掲載して、皆様方の保育所経営の一助となれば幸いです。発刊まで今しばらくお待ち下さい。

(私部保育園 H・H)

保育海外研修 制度要綱を改定

保育部会常任委員会が10月4日開催され、その中で、「保育海外研修制度要綱」の改定が決定された。

今年度はハワイ

今年度の研修は平成18年1月12日～17日の日程で、研修先はハワイ。第1回目の保育海外研修で訪れた保育園を視察する予定である。海外研修の参加申込み及び制度要綱などについては、10月末に各会員施設に送付済みで、申込みの締め切りは11月10日(木)となっている。

落語医者の保育うだうだ話

こぼれ話①

「子育て支援」

「落語医者の保育うだうだ話」など、本紙に21年という永きにわたり執筆をいただいたかしわ保育園園長で、児童精神科医師の北畑英樹さんに、お話をお伺いしました。



北畑英樹さん

■「子育て支援」？
書くときというのは、30分でパツと書ける時もあれば、3日かかって書けない時もあります。最近、「書きたいな」と思いつつ、書けないでいることがあります。

そのひとつは、「子育て支援」という言葉についてなんです。これは保育業界や世間のあちこちでキーワードのように使われる言葉になっていきますが、「子育て支援」という言い方で、子どもの数が増えるとは思えないのです。

理由が2つあって、まず1つめは、「子育て支援」の意味の伝わり方です。私には、「子どもを産んだら大変です、自己実現が難しいです、苦勞しますよ、だから手助けしましょう」という風に聞こえてしまうのです。

これでは、裏のメッセージである、「子どもを産んだら子育てって楽しい、出産の経験で人間が大きくなって、豊かなになる」というのが届かないのじゃないかと思っています。

もう1つは、主人公が「子ども」になっていないこと。すなわち「子育て支援」ではなく、「子どもが主人公ではない」ということ。母さんが主人公になってしまっている。「子育て支援」にしない。これなら主人公は子どもになります。ずっと気になっているのは、子育ての主人公が常にお母さんやおとなで、子どもが主人公になっていないことなのです。

今、私が子ども側にたっていることは、子育ての苦勞についてすごく話題になるけれど、こんな状況で育てられている子どもの苦勞は誰も話題にしないことなんです。

■「子ども」できない子どもたち
保育にしてもなんにしても、子育ては「子育てする人」が主人公ではなく、「子どもが主人公ではない」ということ。母さんが主人公になってしまっている。「子育て支援」にしない。これなら主人公は子どもになります。ずっと気になっているのは、子育ての主人公が常にお母さんやおとなで、子どもが主人公になっていないことなのです。

（続きは12月号で）

子どもたちの心のふる里に

創設50数年が経過し、地

全が第一と考え、早急に計

池の上に建っていて、危険

極まりない所でした。また、一階は葬儀場、二階は、園

人」が主人公ではなく、「子どもが主人公ではない」ということ。母さんが主人公になってしまっている。「子育て支援」にしない。これなら主人公は子どもになります。ずっと気になっているのは、子育ての主人公が常にお母さんやおとなで、子どもが主人公になっていないことなのです。

この素晴らしい建物は、園の宝であり、子どもたちにとって「心のふる里」となるよう、職員一同が力を合わせ、精進してまいる所存でございます。

老朽改築に当たり、ご尽力いただきました国、大阪府、交野市をはじめ、ご協力いただきました設計士さんや施工業者の多くの方々に心より感謝申し上げます。

老朽改築を終えて

交野市 星田 保育園

域に育まれて歩んできました。た当園も施設の老朽化が進み、特に阪神淡路大震災の影響で乳児室の床下に大きく長い亀裂ができ、建物が木造であったため、危険な状況であると診断を受けました。

そこで、子どもたちの安全が第一と考え、早急に計画を立て、子どもたちの安全を確保するために、星田区の財産である星田会館を借りすることができました。



児の保育室と遊戯室、厨房、トイレ、三階は、一般の方々の施設で、二月には、お相撲さんたちと同居となりましたが、この経験をバネとして、子どもたちも保育者も、いつもの明るさで元気に過ごし、いろいろなことを学ぶことができました。

新園舎は、卵から新しい命が誕生し、みずみずしい輝きと成長への期待が込められ、丸味をおびたスペース、広がりや安らぎの空間となり、光溢れる大きな窓、そして、全床面は、クッションフロアとなっていて、子どもたちに優しい保育が展開できるように配慮していただきました。お陰で、毎日子どもたちの笑顔と元気な声が響きわたっていました。

また、交野市で第1号の子育て支援センターとして、地域の方々と共に活動できる拠点ともなりました。

保育部会 常任委員会 報告

10月4日 午後2時～

- 一時保育・特定保育について
保育部会として、厚労省および大阪府・市長会・町村長会に要望書を提出に行った際の報告がなされた。
- 保育海外研修について
- 府外園長研修について
- よい子ネットについて
- その他

ブロックだより

見所は...

和と洋の
コラボレーション従事者体育祭・応援パレード
河内・八尾ブロック

毎年恒例「施設従事者体育祭」が11月13日(日)、

枚方市の松下電器体育館で開催されます。グループ別応援パレードに向けての練習も熱気を帯びてきました。保育終了後、各保育園から精鋭、男女80人の保育士が防災拠点体育館や近隣の中学校の体育館を借り、和太鼓とダンスの練習に励んでいます。最初は、試行錯誤しながら自分たちでソーラン節の踊りの振り付けを考えていましたが、踊っている間にどんどん斬新なアイデアが仲間の中から出てきました。衣装や小道具もそれに見合うデザインを考えました。

なかなか全員がそろう時間が取れなくて、まとまりがつかず、本当に出来上がるのかと不安でしたが、練習を重ねるごとにみんなの



迫力ある練習風景

習を重ねるごとにみんなの気持ちが一層高まってきました。早く発表したいという気持ちでいっぱいです。見所は、和と洋のコラボレーションをどう表現しているかというところ。精一杯がんばりますので応援よろしく願います。(ゆめの子保育園 Y・K)

「保育のあり方」
みつめ直す北摂ブロック
保育士研修会

大東市の北部に位置し、生駒山・深北緑地公園という自然に恵まれた環境の中にある江ノ口保育園を訪ねました。

保育園をたずねて

333

大東市
江ノ口保育園

ボールのお風呂で「いい湯だな」

園庭のカラフルな遊具は地域の方にも多く利用されているとのこと。また、季節ごとのふれあい遊びや行事に参加される方も増え、なかでも「段ボール遊び」では、巨大迷路や新聞紙・ボールのお風呂で遊ぶ子どもたちの歓声と笑顔があふ

れ、毎年楽しみにされている方も少なくないとか。

10月には老人会の皆さんとの交流会があり、年長児の和太鼓をはじめ、園児たちの踊りや歌を披露し、会食をしたそうです。世代を超えてゆったりとした時間を共有した子どもたちの満足気な表情が印象的でした。

主任保育士と、その責務を担う保育士を対象とした北摂ブロック保育部会主催の保育士研修会が10月25日(水)、茨木市福祉文化会館で、大阪府保育士会の武内茂子会長をお迎えし、開催されました。

「主任保育士の専門性と職責」と題し、国の制度改革の動向に伴い、来年度からスタートする総合施設の方向性や、専門職である保育士の役割について、約2時間ご講演いただきました。昭和23年にスタートした「保育所」も、当時と比べ



真剣に話を聞く受講生

平成17年9月25日、リーガロイヤルホテル光琳の間において華燭の典を挙げられた、我ら保育部会の事務局員の一人、清川美佳子さん。旧姓木越さんだ。飛行機の都合で新婚旅行の出発は29日になったようだが、アメリカはシカゴ経由でナイアガラへ。雄大な滝を見物し、次の目的地であるラスベガスへ飛んだ。ところが運悪く天候不順で、

あ
この
人

そこから先の旅は予定通りに行かず、かなりの変更を余儀なくされたとのこと。お二人の仲の良さに天気が焼き餅を焼いたのではと勝手に想像したが、夫婦として初めての旅行、晴れでも荒れても良い思い出にきつくなったと思う。10月11日から職場復帰されている。第2の人生の出発、健康に留意しご主人と二人三脚で素晴らしい家庭を築かれることを祈る。

なければならぬと痛感する研修となりました。

(玉川橋保育園 M・K)

お詫びと訂正

10月号4面ブロックだより「絵に表れる子どもの気持ち」の記事の中で、大阪信愛女子短期大学の船井賀世子さんとありますのは、舟井賀世子さんの誤りです。お詫びし、訂正させていただきます。

発行所
大阪市中央区中津1丁目11-54
大阪府社会福祉協議会
保育部会
TEL (06) 6762-9001
発行人 男 勝
編集人 永 水